



2017年を振り返り

 代表取締役
 榊原 弘之


今年も残すところあと僅かとなりました。皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今年は、金融を取り巻く内外の環境が急激に変化する中において、弊社としましても真に顧客本位を追求し、質の高いサービスをご提供できるよう努めてまいりました。「貯蓄から資産形成へ」の国策の中、金融の幅広い知識を生かし、カテゴリーに捉わられることなく、お一人おひとりに最適なプランをご案内できるよう、社内カンファレンスを通じてお客様の状況を共有し、様々な角度から分析の上、ご提案させていただいております。今後も、将来の為にある程度のリスクを許容し、資産を形成していかなくてはならない流れは続くものと思われま。現状の社会保障制度の中で、また日本の財務状況の中において、「お客様を守る」とは一体どういうことなのか、海外にも目を向けながら、来年も必死に取り組んでまいります。

さて、2017年度も皆様方のご支援のもと、数多くの表彰をいただくことが出来ました。これらの受賞はひとえに皆様方のご愛顧の賜物と衷心より感謝致しております。この場をお借りして御礼申し上げます。また、今年は新たなことにも様々取り組んでまいりましたので一部をご報告申し上げます。4月にはタイのバンコクへ社員旅行に行き、ソンクラーンというお祭りに参加しました。5月からは「パワーアップ研修」と称し、丸一日を提案スキルアップに費やす過酷な研修を続けております。弊社主催のマナーセミナーの他、提携会社とのマナーセミナーも予定数を上回る回数を重ね、多くのお客様と出会うことができました。個人的には、「公的保険アドバイザー」資格や独立行政法人日本学生支援機構の認定資格「スカラシップアドバイザー」を取得し、自己研鑽に努めてまいりました。来年度に向けて、弊社として、また、個人としても引き続きチャレンジをしていきたいと思っております。

「LINE@」ご登録のお願い

来年度より皆様への情報提供を「NEWS*LETTER」と併用して、「LINE@」を活用してまいります。別紙にご登録方法を掲載しておりますので、皆様必ずご登録くださいますようお願い申し上げます。LINE@限定のセミナーやイベントへのご招待などを行っていく予定です。どうぞご期待ください。それに伴い、**毎月お届けしておりました「NEWS*LETTER」の発行を年4回(春・夏・秋・冬)に変更させていただくこととなりました。**どうぞご理解の程、宜しく願い申し上げます。

ここで皆様に残念なお知らせがございます。弊社のコンサルタントとして1月より活躍しておりました佐藤弘美が、享年58歳という若さで亡くなりました。謹んでご報告申し上げます。先日、お別れの会が取り行われ、多くの方がお集りになられました。これだけ沢山のご縁に恵まれたのも、生前のご人徳によるものと実感した次第です。ご関係者様には佐藤弘美に代わり、中畑美絵が引き続きご担当させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。尚、弊社の年末年始の休業期間は下記の通りです。

【年末年始休業期間】12月29日(金)～1月8日(月・祝)

※新年は1月9日(火)午前9時30分より営業開始となります。

時節柄、ご多忙のことと存じます。くれぐれも御身体にはご自愛ください。来年も変わらぬご愛顧をいただけますようお願い申し上げます。年末のご挨拶とさせていただきます。



『精神腫瘍医』の存在をご存知でしょうか？

ファイナンシャルプランナー
深川 恵理子



精神腫瘍医とは、がん専門の精神科・心療内科医のことです。

『人生でほんとうに大切なこと がん専門の精神科医・清水研と患者たちの対話』(KADOKAWA)という本の出版記念講演会があり、10月29日(日)、台風の雨の中、鎌倉市二階堂のカジュ・アート・スペースに行ってきました。

この本は、「がん体験は、人生の積み残した課題と向き合うきっかけとなり、新しい扉を開くことにつながります。決して不幸とは言い切れないのです。」とおっしゃる、国立がん研究センター中央病院の精神腫瘍科科長・清水研医師とその患者さんたちの対話・物語をまとめたものです。

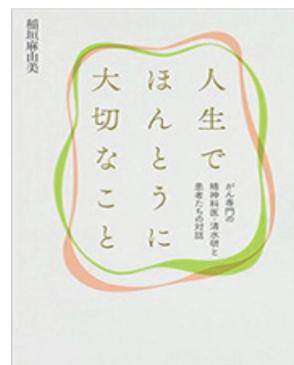
今は、2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代です。本当に身近な病気で、私自身もこの秋、身内や友人が亡くなりました。だれもがいずれ死を迎えることは分かっていますが、それはずっと先のことと直視することを避けています。しかし、ある日、突然人生の期限は突きつけられるのです。それは本人だけでなく、家族にとっても大きな心の混乱を招きます。そんな時、精神腫瘍科医が混乱している自分の横で話をじっと聴き、寄り添い、気持ちを一緒に整理してくれたなら、そして応援してくれたなら、どんなにか心強いでしょう。

講演会では、清水研先生と著者の稲垣麻由美さん、そして、第7話に登場の千賀泰幸さんも登壇され、「僕が清水先生との出会いによって救われた経験は、きっと多くの同じようながん体験者の役に立つものだから、精神腫瘍科を知ってもらうための本が作りたい!」そんな思いからこの本は生まれたとお話されました。

会場の参加者からは、「私の父もがんの手術をしたところですが、家族としては、何かしてあげたいけれど、何をしてもよいかわからない。千賀さんは、ご家族にどんなことをしてもらおうと嬉しかったですか?」という質問が出て、その問いに「お父さんにちゃんと訊いてあげてくださ

い。何をしてほしい?って。そんな風に子どもが気にかけてくれるだけで嬉しいものです。」と千賀さんは答えられ、私も土砂降りの雨に目をそらしていないと泣いてしまいました。どなたもご自分の体験と重ね、胸を話まらせていらっしかったです。その後も参加者のご自身やご家族の質問が続き、清水先生は1つ1つ丁寧に、時にユーモラスに伝えてくださり、会場全体があたたかいカウンセリングルームのようでした。そんな「精神腫瘍科」の診察は保険診療で受けられるそうです。がんになった時、その機会を得られるか、得られないかは大きな違いです。一人ではどうすることもできない辛さが少しでも和らぐようお伝えしたいと思いました。

日頃、忙しさにかまけ後回しにしがちですが、「病気」という体験をきっかけに、どう大切な人に寄り添い、どう大切な時間を過ごすか、そして、自分自身、「自分の人生を全うするとはどういうことなのか…」わからないけれど、なんということのない日常の一つひとつ、楽しいことも切ないことも味わって生きていきたいと思えます。



【清水研 しみず けん】

<http://www.ncc.go.jp/jp/ncc/clinic/psycho-oncology/010/20170830153011.html>

精神科医・医学博士

国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科科長

日本総合病院医学会専門医・指導医

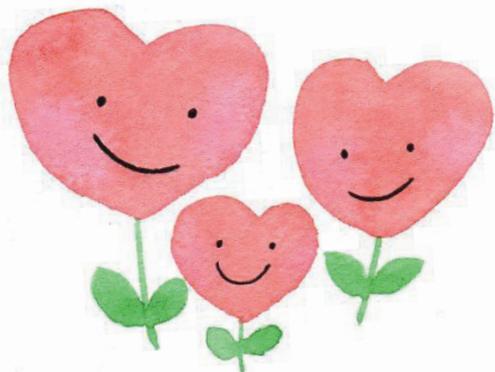
日本精神神経学会専門医・指導医

【稲垣麻由美 いながきまゆみ】

文筆家 編集者

株式会社一凜堂 代表取締役 <http://ichirindou.cm/>

「命」と「想い」をテーマに執筆を続けている。7年近い取材期間を経て刊行した『戦地で生きる支えとなった 115通の恋文』(扶桑社)は、舞台「逢いたくて」の原案となり、日本橋三越劇場などで上演。



世界に目を向けた分散投資

ファイナンシャルプランナー
堤 太郎



“新興国”と聞いて皆さんはどういったイメージをお持ちですか。インフラが整っていない、治安が悪い、政治的に不安定、といったイメージが一般的でしょうか。確かにすべてが整っている日本に比べ住むには不便かもしれません。ですが、近年急成長を遂げている国も多く存在します。今回は経済成長が順調で投資先としても注目されている新興国をいくつかご紹介します。



2000年以降経済成長が一度もマイナスにならず堅調な成長を続けているのがインドネシアです。世界第4位の人口大国であり国内での個人消費が安定。経済成長率も5%前後で高水準を維持しています。中国・パキスタン経済回廊(CPEC)計画のもとインフラ整備や公共投資を進めるパキスタンの経済成長率も5%を超えています。中国に次ぐ世界第2位の衣料品輸出国であるバングラディッシュに至っては約7%の経済成長を記録、今後もこの水準を維持するとみられています。世界銀行の予測ではインドネシアやパキスタン、バングラディッシュを含む南アジア全体での経済成長は2017年で6.9%。2018年は7.3%になるそうです。この経済成長率は日本のバブル期とほぼ同じですね。インドネシア

やその周辺の近隣諸国は今後も相乗的な経済成長が見込まれます。

日本国内では低金利が続き、“預金”から“資産形成”へと意識が変化しています。iDeCo(個人型確定拠出年金)への加入者は50万人を超え、来年度からは新たに“つみたてNISA”も始まります。世界に目を向けた分散投資をする際、運用先の選択肢として南アジア周辺の新興国を加えてみてはいかがでしょうか。

あなたの周りの「鍋〇〇」

クラーク
中畑 美絵



12月に入り寒さが増し、温かい食べ物が恋しい季節になりました。温かい食べ物といえば「鍋」。ご家族やお友達とも楽しめる鍋は寒い冬には欠かせない代表的なお料理ですね。

そんな鍋の場を仕切るのが皆さんもご存知、「鍋奉行」。

かく仕切る人のことです。しかし、そんな鍋奉行よりもっと厳しい仕切り役がいるんです。それが「鍋将軍」!! 奉行よりも権力があり逆らうことが出来ないということで「将軍」なんだそう。他にも鍋には欠かせない灰汁をすくい取る役が「灰汁代官」(悪代官)!灰汁にはうまみ成分も含まれているので、取り過ぎてしまうと文字通り悪代官に。あとは「待ち奉行」(町奉行)と「待ち娘」(町娘)。準備にはほとんど手を出さず、ひたすら食べられる時を待ち、おいしく食べるだけの一番おいしい役です。さて皆さんはどの役でしたか?

これからが寒さの本番。ご家族やお友達と鍋を囲み、暖かい時間を過ごしてみたいかがでしょうか。その際には是非、誰がどの役か観察しながら楽しんでくださいね。もし鍋将軍がいたら決して逆らわないように。



知れば知るほど! ナルホド金融経済

今年を振り返る

ファイナンシャルプランナー
松下 新



トランプ大統領登場で始まった2017年もまもなく終わります。この一年を振り返ってみましょう。

当ニュースレター1月号でお伝えしました通り、今年のメインイベントはトランプ大統領就任、フランス大統領選、そして中国共産党大会でした。国内に至っては7月の都議会選挙、そして想定外の総選挙です。一方、世界の株価は史上最高値を更新、我が国の株価もバブル崩壊後の最高値をつけるなど、経済も順調に推移しています。

トランプ政権は発足以来閣僚の辞任や更迭が相次ぎ、主要人物によるスキャンダルなどで支持率が下がる一方、経済に目を転じると雇用は順調に伸び、緩やかな利上げと共に株価は最高値を更新しています。ただ、ドル円相場に見られるように先行き不透明な政権運営の不安は拭えず(ドル安要因)、120円到達には程遠い感があります。また、法人税の見直しでは特に米企業が海外で儲けた資金を国内に帰還させる際の税率を下げる法案(現地通貨売りのドル買いニーズ要因)が見送られる見通しが強く、一気にドル高に向かう事はなさそうです。また11月のアジア歴訪でトランプ大統領は北朝鮮の度重なる挑発に警告を発し、強硬なスタンスを世界に発信したため地政学リスクが高まり、為替・株式相場の動向はより不透明になっています。



そのような中、金融の舵取りを行うFRB理事長をイエレンからパウエルに交代させた事で(本稿執筆時点では上院の承認待ち)金融引き締めの可能性が高くなったと思われれます。来年も引き続き金利は高め、株価も上昇、ドル高方向という流れは継続しそうです。

欧州では移民排除の極右翼との連立が噂されるもののオーストリアで31歳の首相が誕生し、フランスも若いマクロンが極右翼のルペンを破り、スペインのカタルーニャ独立問題は未解決とトランプ大統領の自国利益主義が必ずしも世界の潮流になっていないことが確認されました。温暖化問題を含め、トランプ政権の掲げるアメリカファーストの考え方は地球全体でエコに取り組む各国と距離があり、政策の修正が余儀なくされるものと思われれます。

アジアでは中国の習近平体制が今後しばらく続くことが明らかとなり、東アジアにおいては尖閣諸島や竹島、中国による南シナ海軍勢力増強など局所ごとに問題は残るもののアジア全体を揺るがす大きな問題にまでは発展しそうになく、孤立する北朝鮮の出方が注目されます。

最後に我が国は夏の都議会選挙で一気に多数派を勝ち取った小池都知事が想定外の総選挙では大敗を喫し、自公両党が圧倒的多数となり、良い悪いは別として安倍首相は安定した政権運営が可能となりました。その結果、日本の株価も引き続き上向いていくことが予想され、経済にとっては悪い話ではないでしょう。

以上、今年もいろいろありましたが、来年もやはりトランプ大統領のアメリカを中心に面白い年になりそうです。皆様どうぞ良いお年をお迎えください。



差出人・連絡先

アルシアコンサルティング株式会社

〒251-0023 神奈川県藤沢市鶴沼花沢町2-3 PHビル2階
TEL: 0466-54-8417 <https://www.arxia.jp/>

掲載内容等に関するお問い合わせは各担当営業まで。
禁無断転載 Copyright Two Way Communications Inc.